

## 文献紹介

アラン・ベイカー著，金田章裕監訳  
『地理学と歴史学—分断への架け橋—』

原書房 2009年9月 402頁 3,800円＋税

本書は、2003年にCambridge University Pressから出版されたAlan R.H. Baker: Geography and History—Bridging the Divideの邦訳書である。

本書は下記のように序文とともに6つの章から構成されている。

序文

第1章 地理学と歴史学の関係について

第2章 立地の地理学と歴史学

第3章 環境の地理学と歴史学

第4章 景観の地理学と歴史学

第5章 地域の地理学と歴史学

第6章 考察

参考文献

人名索引

各章の内容の要点を紹介したい。

序文では、「歴史地理学の基礎的な継続性と、地理学と歴史学の関係の継続性を確認すること」に関心があることを明言している。また、明記されている歴史地理学者の氏名をみても、著者が世界的に活動している歴史地理学者の一人であることを知り得る。

本書の意図を「地理学と歴史学の関係について積年の議論に参画し、それを、この二つの知的ハイブリッドである歴史地理学と地理史の実践の論評を通して行う」としている。このための枠組みとして、旧来からの地理学・歴史学・主題の3つの要素の関係(本書の図1.1, 14頁)を提示しつつも、本書における新しい考えとして、地理学の主要な言説である立地・環境・景観の3つをあげ、それらの交差点において地域(領域)を提示している(本書の図1.2, 21頁)。そして「歴史地理学の本質についてと地理学と歴史学の関係についての議論のために有益な骨組みとして役立つ」と明言する。

第2章から第5章は、著者の前述の枠組みに従って、立地・環境・景観そして地域の各々の言説ごとに、地理学と歴史学とにおける研究成果を

対比しつつ、各学問分野の相互関連を検討している。この点は、各章の節の題目を概観することで理解できる。第2章は、「地理学の立地論」、「地理的分布」、「空間的拡散」、「歴史地理学、時間地理学、そして時間性の地理学」、「空間史、地域史、地理史」で構成され、第3章は「地理学の環境論」、「歴史地理学、歴史生態学、歴史環境学」、「歴史環境地理学」、第4章が「地理学における景観論」、「学際的連繋と景観の表象」、「景観の形成」、「景観の意味」、「景観の記憶とアイデンティティ」、そして第5章では「地理学の地域論」、「歴史的地域地理学」、「地域史と領域史」、「場所の歴史、時間の歴史：歴史地図帳」で構成されている。このように各章のはじめには、地理学の主要な本質理論である立地論・環境論・景観論そして地域論に関して、従来の学説を踏まえつつ概観している。その上で、4つの各本質理論における地理学と歴史学との研究成果に基づき関連を検討している。その意味では、第1章の後に各章の最初の節を読むことによって地理学の本質理論を再認識し、各章の2節以降を読むと行った手段も、本書の理解を深化する読書方法かも知れない。

筆者は、序文において「本書を主として歴史学と地理学両方の専門課程の学生と大学院生を対象として執筆している」としている。評者は、一昨年度に勤務校の大学院生の授業で本書を用いて、演習形式で講義を実施した。本書の中で取り扱われている事例は、当然のことながら欧米地域を対象とした研究成果が大半である。このため、本書で扱われている事例で捉えられている考え方を、日本の歴史地理学での研究成果でみた場合を踏まえつつ、内容を理解してもらうように講義を進めた。しかし、学部の時期に歴史地理学的内容の概論ないしは特論を履修してきていない受講者が多く、講義の進行に支障をきたすことが多々あった。その意味でも、歴史地理学に関する基礎的知識を習得した学生を対象としなければ、本書をより充実して使用することは困難と思われる。

第6章は、いわば本書の結論に相当する。ここでは、歴史地理学の基本的特質として7つの原則

が提示されている。地理学と歴史学とに関係する原則として「歴史地理学は、歴史学のように、過去について疑問を発する」、「歴史地理学の資料と理論は共に、歴史学のそのように、疑問点が多い」、「議論は歴史地理学の実践の中心である」の3点を指摘している。さらに、歴史地理学と地理学とに関わることとして「歴史地理学は基本的に時間を通しての地理的変化に関するものである」と「歴史地理学は地理学全体の中心にあるのであって、その周辺にあるのではない」との2点の原則をあげている。そして最後に、場所の歴史に関連する原則として「歴史地理学は基本的に、場所の統合にかかわるものであり、空間分析に関するものではない」と「歴史地理学は特定の場所の歴史的特異性を強調する」の2点を提示している。

最後になるが、本書には50ページにも及ぶ参考

文献が掲載されている。しかし、邦訳が紹介されている参考文献は16冊に過ぎず、読者とくに学生にとっては、より多くの邦訳が提示されている方が学習が容易になろう。たとえば、序文で取り上げられているリュシアン・フェーブル（1922）の著作は、『大地と人類の進化 歴史への地理学的序論』（上・下巻）の書名で岩波文庫から出版されている。

いずれにせよ、世界的な歴史地理学者による歴史地理学の本質理論に関する書籍が、日本語で出版され一層身近になったことは、我が国における歴史地理学の今後の発展に大いに寄与されることとして期待したい。また、歴史地理学界の方々のみならず、地理学者はもちろんのこと歴史学者にも広く本書が読まれ、「歴史学者の地理的視野の拡張、地理学者の歴史的理解の深まり」への「新しい始まり」となることを希望するものである。

（古田悦造）